

第 26 回 BC 州日本語弁論大会
2014 年 3 月 1 日 (土)
優秀作品集

BC 州日本語弁論大会実行委員会

この作品集は、参加者の原稿を元に BC 州日本語弁論大会実行委員会が編集したものである。

第 26 回 B C 州 日本語 弁論大会

日時：2013 年 3 月 1 日 土曜日 午前 10 時 00 分

場所：Simon Fraser University

コーディネーター：Noriko Omae (SFU/サイモンフレーザー大学)

Rebecca Chau (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

Ihhwa Kim (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

司会者：Erika Csanyi & Jennifer Csanyi

審査員：Ryoko Maccoll (School District 68 Nanaimo-Ladysmith)

Wendy Yamazaki (Seaquam Secondary)

Tomoko Bailey (JALTA)

Ritsu Muratake (H.I.S)

Hiromi Ichinomiya (GPI Canada)

Masateru Matsubara (Kiyukai)

Sharalyn Orbaugh (UBC)

Fumiko Watai (UBC)

Akemi Takei (Langara College)

Yuri Naito (Douglas College)

Nobuyuki Naito (Mitsui Canada)

Hiroyuki Numao (Konwakai)

Seiji Okada (Consul General of Japan in Vancouver)

出場者：

【高校 初級】

- | | | |
|-------------------------|------------|---|
| 1. Jaysang Ahn | 老人から学んだ生き方 | A Lesson about Life Learned from an Elder |
| 2. Wu Jih Hsu | 世界を変える | Changing the World |
| 3. Jennifer Ji Min Park | 母の涙 | Mother's Tears |
| 4. Caitlin Zhang | 夢の跡 | After the Dream |
| 5. Chris Zhu | 職人魂 | Craftsmanship |

【高校 中級】

- | | | |
|------------------------|------------|-------------------------------|
| 1. Katie Bae | 私の韓流効果 | K-Pop Power |
| 2. Jennifer Han | こんな私でも出来る事 | The Things That I Can Do |
| 3. Andy Seonghyeon Kim | 僕のサンタクロース | My Santa Claus |
| 4. Yue Ling Zhang | 私が知らなかった世界 | The World That I Did Not Know |

【高校 オープン】

- | | | |
|------------------|---------------|-------------------------------|
| 1. Young Hoo Cho | いつでも広告、どこでも広告 | Advertisement Everywhere |
| 2. William Qian | 日本人と納豆 | Japanese and Nattou |
| 3. Mengxi Zhou | 私と漫画 | My Experience in Japan--Manga |

【大学・一般 初級】

- | | | |
|-------------------------|------------------|---|
| 1. Carmela de Torres | まだ見つからなかった情熱を探そう | Let's Look for the Passion We Haven't Found Yet |
| 2. Yiming (Sherry) Hu | 動物を守る | Protecting Animals |
| 3. Hee Yeon Kim | 日本語を習ったきっかけ | The Reason I Started Learning Japanese |
| 4. Kaitlan McCuish | 私のしょくぎょうせんたく | My Career Choice |
| 5. Alex Nowak | 毎日のこんなんのうちかつこと | Overcoming Everyday Difficulties |
| 6. Xiaojing Wu | ファッションと生き方 | The Fashion and the Attitude to the Life |
| 7. Ketty (Haolin) Zhang | 単純さの美 | The Beauty of Simplicity |

【大学・一般 中級】

- | | | |
|------------------|-------------|-------------------|
| 1. Guangcheng Ma | 私の選んだ道 | The Road I Choose |
| 2. Qi Shen | 日本のバラエティ番組 | Japanese TV Show |
| 3. Chole Smith | ベジタリアンになること | Being Vegetarian |

【大学・一般 上級】

- | | | |
|----------------------|-----------------------|---|
| 1. Yunsoo Cho | 蛙の旅 | Journey of a Frog |
| 2. Summer Fang | 方言で話そう | Let's Talk in Dialect |
| 3. Nicholas Hoyte | 「外人」という言葉が差別用語なのでしょうか | Is the Term "Gaijin" (another word for foreigners) a Discriminatory Word? |
| 4. Rebecca Schaeffer | ここにいる理由：自信の力 | The Reason I Am Here: the Power of Confidence |
| 5. Joy Xu | ロードを飾った音 | Road Decorated by Sound |

【大学・一般 オープン】

- | | | |
|----------------------|------------|-------------------|
| 1. Erika Sommerville | ステレオタイプの脅威 | Stereotype Threat |
|----------------------|------------|-------------------|

入賞者

【高校部門】

初級部門	第1位	Chris Zhu	職人魂
	第2位	Jaysang Ahn	老人から学んだ生き方
	第3位	Caitlin Zhang	夢の跡
	特別賞	Wu Jih Hsu	世界を変える
中級	第1位	Yue Ling Zhang	私が知らなかった世界
	第2位	Jennifer Han	こんな私でも出来る事
	第3位	Andy Seonghyeon Kim	僕のサンタクロース
オープン	第1位	Mengxi Zhou	私と漫画
	第2位	Willaim Qian	日本人と納豆
	第3位	Young Hoo Cho	いつでも広告、どこでも広告

【大学・一般部門】

初級	第1位	Ketty Zhang	単純さの美
	第2位	Xiaojing Wu	ファッションと生き方
	第3位	Carmela de Torres	まだ見つからなかった情熱を探そう
	特別賞	Yiming Hu	動物を守る
中級	第2位	Guangcheng Ma	私の選んだ道
上級	第1位	Summer Fang	方言で話そう
	第2位	Rebecca Schaeffer	ここにいる理由：自信の力
	第3位	Yunsoo Cho	蛙の旅
オープン	第3位	Joy Xu	ロードを飾った音
	第1位	Erika Sommerville	ステレオタイプの脅威

職人魂

むかし、「二郎は鮨の夢を見る」という映画を見ました。映画は、86歳を超えた寿司職人で、銀座の「すきやばし次郎」の店主・小野二郎さんのドキュメンタリーでした。美味しいお寿司を作るために毎日朝から新鮮な食材を集めて、自分で下ごしらえからします。その店では見習いを10年しなければ鮨がにぎれません。それを見た時、僕は日本人の仕事に対する情熱に感動してしまいました。

「職人魂」とは、毎日同じことを何度も繰り返して、そこから精緻を極めることです。職人は自分の仕事を大切に思い、いつも一生懸命に向かい合う、自尊心が強い人たちです。作るものは、自身を反映するものだと思うから、仕事を厳粛にします。たとえ小さいことでも、まじめにやって「普通」より上のものを目指します。そんな自分を誇りに思っています。この「職人魂」は日本の明らかな民族の魂で、民族の魂がなければ、民族が強くなることができないと僕は思います。社会の中で、人々は知らず知らずにこの魂を身につけるのでしょうか。

日本の世界的に有名で高い技術は、多くは小さい工場で生まれています。また農業での野菜や果物などの研究、開発にもたえず努力をしています。一人一人が持つこの精神は学ぶに値することです。僕の国、中国では自国の製品が信頼できないので、お金のある人は輸入品を好みます。僕の家族も果物や野菜まで輸入品でした。

中国は日本とはかなり違います。中国の伝統は、仕事で貴賤を区別します。中国人はいつも正義を口にするけれど、実はただ上級職員になって不正なやり方で国民のお金を使いたいと考えている人が多いのです。僕たち漢族にも忍耐強く、情熱的で、誠実な人もたくさんいるけど日本の職人のような精神と環境はまだ充分ではありません。社会環境が人を変えることを在日中国人の仕事ぶりが証明しています。母の在日中国人の友達の仕事の態度がまじめで責任感も強く、苦勞もいとわないそうです。

お金とか、官職とかなくても、ものづくりが好きという理由だけで一つのことを続けている人たちが僕の思う「職人」です。この人たちはきっと世界で一番高潔な人類だと思います。僕も将来は職人になりたいです。コンピューターとテクノロジーが大好きだから、自分のアイデアで、人と機械の距離がもっと近くなるような便利なデジタル商品を作り、その分野の職人と呼ばれるように、きつとなります。

老人から学んだ生き方

皆さん、こんにちは。ジェレミーと申します。ある時まで、私は、この世には、正義などないと信じていました。人間は自分のことしか考えず、人のために自分を犠牲にする人はいないと思っていました。小さい時からこう思っていました。ずっとこの考えは変わらないだろうと信じていました。しかし、あるボランティアの経験をきっかけに、考えが変わりました。

そのボランティアは、ある老人ホームでお年寄の話し相手をするという仕事でした。この仕事を始めたのは、ただ、高校でボランティアをしなければいけない という決まりがあったからです。それだけの理由でした。私には全然興味がなく、楽しくもない仕事でした。だから、時間が経つのは遅く、一分一秒が苦痛でした。ある日、私はボブという名前のおじいさんと三十分話をするようになりました。三十分もです！私は「退屈で、死んでしまう！」と感じました。部屋に入ると、おじいさんが笑顔で迎えてくれました。私もつくり笑いで応えました。

あまり話したくなかったので、おじいさんの若い頃の話聞くことにしました。彼は若い時、カナダのノースウエスト準州の知事に選ばれました。当時は、この州の知事のほとんどは、オンタリオ州に住み、そこから行政を行うことになっていました。ノースウエスト準州は、住むには、あまりにも寒く、不便だからです。しかし、彼は家族を連れて、自らそこに引っ越し、その人々と接しながら働いたのです。そこで暮らしてみて初めて、いかに状況が悪かったかを知り、大変驚いたそうです。それからの二十五年間、その土地の人たちの生活環境を良くするために人生を捧げたそうです。いつも人のことばかり考えていました。

おじいさんは退職した時、財産のほとんどをノースウエスト準州の人たちのために寄付して、自分は、残った少しのお金で老人ホームに入ったそうです。豪邸に住むこともできたはずですが、彼はホームの静かな生活を選んだのです。この話を聞いた時、私は言葉を失ってしまいました。私は立ち上がって、「ありがとうございました。」と言いました。心からの言葉でした。

このおじいさんは私に真の誠意を教えてくれました。私は、世界にはまだ、自分を犠牲にして、他人のために尽くしている人がいることを知りました。この人たちの努力を無駄にしたくない、と強く感じました。世の中には、このおじいさんのように、今の美しい世界のために働いてくださったお年寄がたくさんいます。この人たちに何か恩返しをしたい。でも何ができるのか。まだ高校生の私には、お金もない。力もない。どうすればいいのか？私はその答えを見つけるために、今生きています。

夢の跡

「夏草や 兵どもが 夢の跡」

この俳句は、テレビのコメディ番組で覚えました。これは、松尾芭蕉の「奥の細道」の中に書かれています。今から 800 年以上前に、奥州の藤原氏と源義経が戦った場所です。そこを旅行した芭蕉がこの俳句を作りました。

私も小学生のとき、夢がありました。北京の新体操の大会で優勝することでした。小学校 1 年生のときから新体操をやっていましたが、4 年生のとき、新体操の大会に出たのに失敗しました。そのあと、何時間も、何時間も練習しました。悔しいこと、辛いこともありました。

そして、5 年生のとき、とうとう夢が叶いました。ようやくチャンピオンのタイトルをもらいました。そのとき、次のステージを目指して頑張りたいと思いました。ところが、そのあと、ケガをしたりして、練習できなくなりました。悩んで悩んで、どうしたらよいか、わからなくなりました。まるで、暗闇の中の子どものようなようでした。結局、新体操をやめました。

私は、チャンピオンになる目標は達成しました。次の目標はまだ見つかっていませんが、このまま終わらせたくありません。まだ 15 歳ですから、いろいろなことに挑戦していきます。

私は、人を笑わせることが大好きです。笑うと心が温かくなります。日本のお笑いについても興味をもっています。笑顔が一つ増えると、世界の平和に一步近づきます。

芭蕉の俳句では、昔の人たちの生きた姿が夢のように思い出されます。私にとって「夢の跡」は、「嵐の前の静けさ」のような、エネルギーを充電する時間です。私は夢に向かって 進みます。

私が知らなかった世界

パウエル祭のボランティア活動に参加した時、多くのホームレスの人たちを見ました。父は私を心配して、「危ないから、そばに行かないように」と言いました。でも、私は「彼らも同じ人間なのに、どうして危ないのだろう」と考えてしまいました。ひとの価値と人格は見た目で評価することはできません。これがきっかけで、私は poverty reduction committee というチャリティー組織に参加することにしました。はじめて参加した会議で BC 州の貧困問題について知り、おどろきました。BC 州は裕福な人たちが他の州より多い反面、ホームレスの人口も一番多いのです。みなさんはご存じでしたか。私はそれまでホームレスの人たちは仕事を探すどりょくをせず、ただ無駄に過ごしていると誤解をしていました。しかし、十分な教育を受けられなかったなどの理由で 仕事に就けない人も多いのです。また、高い物価のせいで家もなく、食べ物もかえず、最低限の生活もできない人たちもいます。私のまわりには裕福な人たちが多かったので 食べる物にも困るような生活を想像したこともありませんでした。そんな人たちの苦しみを理解できなかつた私に人を見ただけで判断する権利などありません。自分が恥ずかしくなりました。そして、貧困問題に対して、自分に何ができると考えるようになりました。

私は Poverty Reduction Committee からたくさんのお金を習いました。以前の私は、ただお金や食べ物などを寄付すれば 貧困問題を解決できると思っていました。しかし、この問題はそんなに簡単ではありません。物資の寄付は短期の解決でしかないのです。色々なことを変えていかなければいけません。たとえば、政府の財政の中のホームレス対策予算をふやせば、もっと就職支援ができるでしょう。また、貧困に対する人々の認識を高めれば偏見や差別をなくしていくこともできるでしょう。そのためには、学校や家庭でも話し合い、一人一人が自分たちの地域の状況をまず理解することが大切な第一歩だと私は信じています。

BC 州の貧困問題を知るという経験は、私の将来設計に大きな影響をあたえました。これからも、この問題と関わっていきたいと思っています。政治と貧困の関係について学ぶために、私は大学で経済を勉強するつもりです。一人で世界の貧困問題を解決するなど、不可能だとわかっていますが、将来自分の力で少しでも今の状況を改善したいと強く願っています。これが今の私の目標です。

こんな私でも出来る事

私の何が分かりますか。

顔では笑顔を作っていても心から笑えていない私でした。それがくせになっている哀れな私、そんな嘘つきな自分が嫌いでした。そのくせ、私の何がわかるんだとそんなふうにもいつも思っていました。

高校 2 年生になって、こんな自分にはもう耐えられない、問題だ、何とかしなければ、このままでは生きていけない、駄目だと切実に思うようになりました。そこで初めて学校のカウンセラーに相談し、心理療法士の方を紹介してもらいました。最初はなかなか心理療法士を信じられなかった私でしたが、次第に全てをさらけだして、苦しみと悩みを相談し解決に導いてもらいました。私には三つの大きな問題があったのです。

台湾から来て英語ができなかったのでひどいいじめにあったこと。父が私をめったにほめなかったこと。そして、問題を抱え自虐的になっていた 6 歳上の姉を側でみていたこと。それらが原因で臆病な人間になり、外の世界を嫌い、人との信頼関係が築けず、いつも自分を卑下して、生きる意味を探していました。すでに、姉の問題を持つ母に、これ以上心配をかけないようにと全ての問題や悩みを自分で呑み込んで生きていました。父が照れ屋で、私を褒めることができないことを知りませんでした。だがらいつも努力不足と自分を否定して、追い込んでいました。こんな私になにができるか、徐々に 自信をなくしていききました。

でも今の私は違います。以前の私より驚くほど明るくなりました。周囲のサポートもあり、どんどん 勇気が出て、もう 自らの問題から逃げる事もなくなりました。

そんな経験をした私だから、同じように苦しんでいる人達を助けたいと 思うようになりました。それで こんな私が できることをと考えると、ある先生に落ち込んでいる後輩を 紹介されました。彼女は過去に逃げ、いつも過去のことにとこだわり、前向きな気持ちをもてないでいました。最初は、彼女も私のことが信じられなかったようです。でも 忍耐強く言葉をかまし、少しずつ、少しずつ信頼を得ていき、彼女の問題をいっしょに 解決することができました。その時 「ああ、こんな私でも出来る事があるんだ。」と 思い、心から嬉しかったです。

頑張れば したいことができます、自分を信じれば もっと自分が 好きになれます。ただそれを 伝えたいのです。私はもう迷わず 自分の道を選んで、歩けます。こんな臆病な私ができるなら、誰でもできます。私の辞書に「諦めると 逃げる 」はありません。私は立派な心理療法士になります。それが、「私が出来る事」です。

僕のサンタクロース

僕が 8 歳の時、サンタクロースからの手紙にはこう書いてありました。

「アンディー、いつもいい子だね。今年もがんばったから、プレゼントをあげるよ。」

みなさん、こんにちは。僕の名前はアンディーです。みなさんは、サンタクロースを信じますか？

つい最近まで、僕はサンタクロースを信じていました。サンタクロースに手紙を書き、サンタクロースにクッキーとミルクを用意してから寝るのが、クリスマスイブの僕の習慣でした。翌朝、クッキーがなくなりプレゼントがありました。僕は、プレゼントを開ける時のドキドキした気持ちを忘れることができせん。みなさんもきっと、同じ経験があると思います。

僕のクリスマスのメインイベントは、毎年、フィンランドから届くサンタクロースの手紙でした。長い間僕は、本当にサンタクロースが僕に手紙を書いてくれたと信じていました。その手紙は英語で、しかも、手書きで書かれていて、びんせんのはしからはしまで、びっしり文字がつまっていた。僕は今でもその手紙を宝箱の中に大切にしまっています。でも実は、この手紙は父が書いてフィンランドに送ったものだと、8年生のときに知りました。ちょっとショックでしたが、毎年かかさずフィンランドに英語の手紙を送っていた父のことを考えると、胸が熱くなりました。

僕は現実を知ってしまいましたが、両親には僕がサンタクロースを信じていないと、言いたくありません。僕はどんどん大人になっていくけど、両親はときどきサンタクロースを信じていた頃の僕をなつかしんでいるような気がするからです。

両親は、僕が子どもの頃から僕の写真やビデオを撮り続けています。その数から、両親がいかに僕を大切にしてくれたかがわかります。去年の夏休みに、僕は韓国へ帰りました。久しぶりに子どもの頃のアルバムを見ました。何度も繰り返して見てきたアルバムですが、今回、あることに気づきました。それは、8ヶ月くらいの僕が床の上に座っている写真です。その写真の僕の後ろに両親の手が写っていたのです。左から父の手が、右から母の手が僕を支えていました。これを見た時、僕は決して一人で大きくなってきたんじゃないということに気づき、また胸が熱くなりました。

僕にとって両親は、僕にたくさんの喜びをくれた永遠のサンタクロースです。いつか大人になったら、今度は僕が両親のサンタクロースになって、いろいろなものを両親にあげようと思います。両親はなにをサンタクロースにリクエストするでしょうか。僕は両親に聞かなくてもわかります。両親の一番のプレゼントは僕の幸せだと知っているからです。

私と漫画

今日は私の十七年の人生の中で最も大切な出来事とも言える漫画との出会いを話したいと思います。私は八歳の時に両親とともに日本へ移住しました。両親は勉強にとっても厳しく、その影響で私はずっと、漫画は悪い子が読むものだと思い込んでいました。

漫画は悪い影響しか与えない、という偏見を持った私は中学一年生の時にある耳鼻科クリニックで漫画と衝撃的な出会いをしました。待合室の中で私は『学園アリス』という漫画を手に取り、何となくページをめくりました。小さい頃からファンタジー小説が大好きだった私は、すぐに超能力者が活躍する『学園アリス』に引き込まれました。『学園アリス』を読み終わった頃には私はすっかり漫画の虜になってしまい、『One Piece』や『黒執事』、『マギ』など、色んな漫画を読みあさりました。

様々な漫画を読んで、私は、どの漫画にもしっかりとしたテーマがあることに気がきました。いじめや友情、世界平和や男女平等など、どれも現代社会の問題や現状を反映しています。一見非現実で薄っぺらたく見られがちな漫画ですが、実は現実ととても深くつながっているのです。テーマだけでなく、いい漫画はプロットも緻密に出来ています。物語の展開に翻弄されながら、私は登場人物と共に時には笑い、時には泣き、時には感動を分かち合います。クオリティーの高い漫画を読むといつもまるで自分も漫画の中にいるかのように錯覚します。

隠された文学要素も素敵ですが、何と言っても漫画の最大な魅力はその芸術的要素にあります。特に『黒執事』はいい例です。初めて『黒執事』を読んだ時、あまりにも綺麗な絵に息が止まりました。繊細なタッチと細部にわたるこだわり、そして背景の豪華さには尊敬するばかりでした。このように漫画は視覚的にも私達を楽しませてくれるのです。絵自体だけでなく、「コマ割り」と呼ばれるストーリーの流れをコントロールする方法にも嘆息するばかりです。コマ割りとはどの場面でどれくらいのスペースを取るか決めることです。物語がスムーズに進むには上手なコマ割りが不可欠です。私も漫画を描くことに挑戦したことがあります。その時、漫画家が作品に費やした時間と努力を思い知らされました。漫画は他の文学作品や芸術作品と同じくらい価値のあるものだと思います。

漫画は私の人生の教科書です。家族の大切さ、障害にぶつかってもくじけないこと、偏見を持たずに自分の目で見てしっかり判断することの重要性、目標を達成するために努力をすること、また、自分の存在価値や生きる意味などを教えてくれました。両親は今でも漫画を読むことに少し反対していますが、私は漫画と出会ったことを後悔していません。むしろ十何年という人生の早い段階で、一生の宝物を見つけることが出来て良かったと思います。漫画は日本の世界に誇れる文化の一つです。まだ小さい頃の私だったように漫画に対して偏見を持っている人がたくさんいますが、まずは身近な人にこの経験を話すことから、日本の漫画をカナダでも広めて行きたいと思います。

日本人と納豆

日本食は、その長い伝統や丹精込めた作り方で世界的によく知られています。一品一品が高度な技術と感性を込めてつくられていて、見た目にも美しい芸術品になっています。興味深い日本料理はいろいろありますが、私にとって最も興味深い一品は納豆です。独特な匂いや味にもかかわらず、納豆は多くの日本人に愛されてきた伝統的な食べ物です。私はいつもどうして日本人がそれほど納豆が好きなのか不思議に思っていました。ある時、その理由が分かったような気がしました。それは、納豆という食べ物と日本人には多くの共通点があるのではないかということでした。日本人の中には私のこの考えに驚く人もいるかもしれません。日本人と納豆には三つの共通点があるのではないのでしょうか。

まず第一に、納豆に使われている豆という言葉には「勤勉であること」という隠れた意味があります。伝統的に、日本人は「まめまめしく暮らせますように」と、新年に黒豆を食べます。この豆は苦勞をいとわず、物事に励むという象徴なのです。日本人は過去に多くの不幸を乗り越えてきました。特に、第二次世界大戦では非常なダメージを受けました。爆撃で家屋は壊され、町は焼け野原になり、人々は飢餓に苦しみました。そんな最悪な状況から抜け出し、今の経済大国を築いた日本人の底力の基盤にはこの「まめであれ」という思いがあったのではないのでしょうか。私の国中国には「居安思危」という言葉があります。これは「困難が人を発奮させ安楽が人を零落せしめる」という意味です。困難を乗り越えても、過去の苦難を忘れず努力を惜しまない日本人の信念は日本という国が先進してきた理由だと私は信じています。

第二に、納豆の持つ性質は日本人が重んじる人と人とのつながりに例えられるのではないのでしょうか。納豆をふんわりとした食感で食べるためには、糸を引いて空気を含むようによくかき混ぜなくてはなりません。混ぜれば混ぜるほど、納豆は粘りが出て一塊にまとまってきます。これは人と人との関係に似ていると思います。「雨降って地固まる」の如く、共に困難を経験して乗り越えてこそ、人のつながりは強くなるのです。2011年に起きた東北地方太平洋沖地震は東日本一帯に甚大な被害をもたらしました。多くの方が家族や家を失いました。しかし、そんな悲惨な状況の中、被災者の方々は団結し、絆を強め、励まし合ってこられました。災害や被害に見舞われるたびに、日本人は地域の繋がりを強くして、困難に立ち向かってきました。まさに、納豆のように粘り強さと、一致団結で災難に負けない強さを全世界に示してきたのです。私はそんな日本人の精神力を尊敬せずにはられません。

第三に、納豆の豆はいくらかき混ぜても形が崩れません。納豆の豆の一粒一粒は緊急事態における日本人一人一人に似ていると思います。私はこれまで、地震や台風などの災害時に落ち着いて行動する日本人の姿をニュースなどで目にしてきました。一人一人が先ず何をすべきかを把握し事態に応じて対応している様子が非常に印象的でした。日本は地理的に自然災害の多い国です。過去幾度となく災害を経験してきました。しかし、日頃から緊急事を想定した様々な訓練を行い、事態に備えています。「備えあれば憂いなし」のことわざのように、予期せぬ出来事が起こったときでも、日本人の一人一人の意識や行動はまとまってしっかりしています。納豆の豆を箸で崩すことができないように、被災時にも状況に屈しない冷静さと精神力の強さが日本人にはあるのです。

こう考えると納豆ほど日本人の気質に合った食べ物はないのではないのでしょうか。私はこう思った時納豆が非常に魅力的な食材に思えてならないのです。その国の国民性がこれほどまでにその国の食文化に現れるのは実に興味深いことだと思いました。ここで、正直に言いますが、実は私は納豆が苦手なのです。しかし、納豆と日本人の共通点を見いだした今、好きにならずにはいられないのです。

いつでも広告、どこでも広告

みなさん、こんにちは。私の名前は、ヨンフーです。英語の名前はアンディーです。私は最近、世の中にあふれている広告にうんざりしています。みなさんも、そういう気持ち、ありませんか？

この間、友達とリッチモンドに映画を見に行った時のことです。7時半に広告が始まりました。もうすぐ映画が始まるとわくわくしながら待っていました。しかし、延々と広告が続き、本当に映画が始まったのは、7時51分でした。映画は2時間、広告は21分。ちょっと長すぎると思いました。

映画だけではありません。私たちは毎日、非常に多くの広告を見て生きていると思います。インターネットを使っている時間の半分は、広告を見ているんじゃないかという気さえします。ゲームをしても、地図を見ても、動画を見ても、いつでも、どこでも、広告だらけです。

ヤンケロビッチという市場調査会社によると、私たちは平均で、一日5000の広告を見ているそうです。5000！私はこれを知ったとき、ちょっとびっくりしました。どうですか？ 皆さんも、広告を数えてみませんか？

私たちが普段何気なく見ている広告。その表現の裏側には、非常に繊細な心理的効果が隠されていることを、みなさんご存知でしたか。まず、消費者を振り向かせるために、呼びかけのフレーズがよく使われます。「掃除が苦手なあなたに朗報！」と聞くと、掃除が苦手な人は、「あ、私！私！」と振り向くに違いありません。次に、日本人や韓国人が好きな行列効果。どのくらい多くの人に支持されているか、というのにも購買意欲をそそられます。例えば、「100万本突破！」、「〇〇ランキング1位」など、ついついクリックしたくなりますね。さらに、イメージによる心理効果です。「ビタミンC 2000mg」と言うより、「レモン100個分のビタミンC」と言った方が、イメージ的にもっとわかりやすいと思いませんか？ 最後に、顕著な特徴をアピールします。「ノーベル賞受賞成分」と書いてあったら、知らない成分でもきっと効果があるだろうと考えるのは普通の心理だと思います。このように、広告の作り手は消費者の心理を巧みに考えながら広告を作っているわけです。私たちにはそれを見分ける能力が必要になってくるのではないのでしょうか。

2011年に世界で4640万ドルの広告料が使われました。これは韓国がかかえる借金以上の金額です。その中には、無駄な広告がたくさんあります。それでも、同じような広告を作り続けています。まだまだ広告を「量」に頼るブランドが多いからです。確かに数打てば当たるのかもしれませんが、多過ぎる広告に私たちがうんざりしてきているのも事実です。これからは量ではなく質のいい広告が見たいものです。そして、うんざりしているだけでなく、私たちももう少し広告を注意して見てみてはどうでしょうか。隠された心理効果に気づくかもしれません。そしたら、その広告にどのくらい信憑性があるかもわかってくるはずです。広告に踊らされたり、騙されたりすることのない、かしこい消費者になりたいものです。

ご清聴、ありがとうございました。

単純さの美

皆さん、こんにちは。私はケティです。

十年生の時、学校で特別なプロジェクトをもらいました。まず、先生は学生を多くのチームに分けました。すべてのチームは小さい、バンクーバーの慈善団体を見つけて、皆さんに紹介します。一番いいチームは \$ 5 0 0 0 をもらって、自分の選んだ慈善団体にあげられます。

たくさんのプレゼンテーションの後、私たちのチームがそのお金を獲得しました。後で他の人を驚かせたことは、プレゼンテーションスピーチを書いた私はほんの一年前にカナダへ来たということでした。

私はあの頃の英語が流暢ではありませんでした。実は、私の英語は普通の速さで話せませんでした。ESLプログラムでは、ネイティブスピーカーの友だちが小学校で習った単語を習っていました。スピーチを書いている時、知らない単語を使いたくなかったですから、とても簡単な言葉を使いました。後で、驚いたのは私の先生の言葉です：「あなたのスピーチはとても簡単でしたが、誠実で説得力がありました。」

私のスピーチはこのように偶然に簡単な美しさを持っていました。他の人は私の短所に感動してくれました。それ以来、多くの単純な例を見たことがあります、それはもっと力があります：たとえば、初めて宮崎駿の映画を見た時、泣きました、ストーリーは単純ですが、懐かしい子供の世界の話ですから。また、初めてモダン日本家屋のデザインを見た時、その単純さの中の美に感動しました。それから、初めて聖書を読んで、驚きました、言葉はとても簡単ですが、意味はすごく大きいからです。

多くの人々は「いい話は複雑だ」と思います。でも、単純さの中に大きい意味があります。日本語を勉強してからちょうど一年後、今、ここでこの簡単なスピーチをしています。一番いいスピーカーではないと思いますが、言葉の勉強から大切な経験を習ったので、幸せです。そして、皆さん、私たちの生活も同じです：複雑にする必要がありません。今の私たちの生活は複雑になりましたが、単純な幸せを見つけてみませんか。

ファッションと生き方

私は、日本の服がとくべつだと思います。服は、自分の個性に合う物がいいです。そして、服は、私達の人生のスタイルも見せると思います。

私は、日本の服の材料がいいと思います。そして、服の中に洗うためのインストラクションがあるのもいいです。好きな服を上手にケアすることができますから、長い間、着ることができます。でも、ユニクロなどの服は、値段が高くないです。だから、みんな日本の服を買うことができます。

2012 年に私は、はじめて日本へ行きました。その時、私は日本の服がスタイリッシュだと思ったので、ジャケットを買いました。それは、私がはじめて買った日本の服でした。そのジャケットは質がよかったです、でも全然高くなかったです。私はその服が私のスタイルだと思いました。そして、かっこよく見えました。また、サイズはアジア人の私に完璧でした。

私のジャケットは黒い色で、そのデザインはシンプルでした。でも、小さいところがとても良いデザインでした。例えば、ボタンは黒いジャケットに良く合う茶色でした。ボタンがあるから、そのジャケットは高級そうに見えます。日本のコートは、ボタンやリストバンドのような小さい部分には、明るい色が使われているので、かっこいいです。ファッションは、細かい部分のデザインが、大きい部分の色より大事なんです。それが日本のデザインの秘密です。

日本の服と西洋の服は全然ちがいます。日本は、西洋の服のスタイルをとりいれて、服を日本の独自のスタイルと文化にしました。日本は、アレンジすることが上手です。昔、日本は中国の文字をとりいれて日本の漢字を作りました。そして、漢字は日本語の一部になりました。今、アレンジする技術は日本の服をユニークにしています。

ユニークであることは、とても大事です。モデルが着る服じゃなくて、あなたが着たい服を着てください。私たち自身の個性をキープした方がいいです。ファッションはコピーじゃなく、本当の自分であることです。

そして、オリジナルであることは、私たちの人生にも関係します。人は、だれでもみんな世界に一人だけのオリジナルです。オリジナルのファッションは、本当の自分を見せています。着たい服を着て、自分の人生を生きたいように生きてください。日本は、日本のスタイルを作りました。私は、日本で私のスタイルを見つけました。人生は、ファッション共にあります。それが、私が日本で勉強したことです。

まだみつからなかった情熱をさがそう

私はずっと若い頃からダンサーにあこがれていました。ヒップホップやバレエやジャズ、シャープではなやかなスタイルなど何でも好きでした。いつも踊っている人たちを見るとそのかっこよさと美しさに感動して、七歳の時、私はバレエのレッスンを取り始めました。

でも、さんねんながらバレエのレッスンは駄目でした。子供のとき、私はスポーツが苦手だったし、運動することもいやだったし、家で本を読むほうが好きでした。でも、とにかくすごく恥ずかしがりやで、ほかの人が私を見ていることをいつも意識していました。緊張しすぎてちゃんと踊ることができませんでした。人の前でパフォーマンスをするなんて私にとっては無理だと思いました。それで踊ることを諦めると決めました。

八年後、高校の一年生になった時、私はボーカロイドのファンになりました。皆さんは初音ミクと言う名前を聞いたことがあるでしょうか。私は、ミクの曲に興味があって、いろんなことをしらべてみました。たいてい、プロデューサーがミクやほかのボーカロイドを使って、作曲します。そして、その曲に合わせてイラストレーターが動画を作ります。歌手手がその曲のカバーすることもあって、YouTube やニコニコ動画にアップロードします。そのコラボレーションとコミュニティーがすごいだと思いませんか。

ある日、ニコニコ動画で好きな曲をさがして、「歌ってみた」のカバーよりダンスのカバーをたまたま見つけました。動画の中の踊り手がすごくたのしそうに踊っていて若い頃の気持ちが浮かびました。振り付けが可愛くてあまりむずかしくなさそうだったから私は動画を見れば見るほどもっと「それもしたいなあ」と思い始めました。

踊り手をまねして、最初は、私は本当にバカみたいと思いましたが、すこしずつたのしくなりました。踊る人たちはふつうにプロではありません。この踊り手は学校や仕事が忙しいはずなのに、それでもファンのために動画を作ってくれます。とてもすごいと思って、また踊り手にあこがれました。

それは三年まえのことでした。今では、自由に踊ることが大好きになったことに私は気づきました。「私は踊り手になれない」と私がかってに思い込んだことだけでした。私は今大学のダンスクラブのメンバーになって、たくさん大切な友達もできました。たくさん運動しますから、生活ももっと活動的になりました。

プロデューサー、イラストレーター、歌手手や踊り手からしげきを受けました。皆さんのおかげで私の情熱を見つけて、私は変わりました。私は一度友達がダンスのパフォーマンスにさそいました。友達が「すごいね！私もそれをできればいいな」と言いました。でもやってみなかつたらわからないでしょう。自分の性格に似合わないと思うことは、怖くても、はずかしくても、やってみるのが大事です。なぜなら私みたいに、あなたのまだみつからなかった情熱があそこで待っているかもしれません。

私の選んだ道

「二つの道があるとき、私はいつも歩む者の少ない道を選ぶ」これは、アメリカの詩人ロバート・フロストの詩です。私は、自分の人生を振り返ってみて、この詩のラインが私の人生の軌跡と一致していることに気づきました。今日、私は皆さんに私のカナダでの経験を伝えたいと思っています。

約六年前に、私はカナダに来ると決めました。私がカナダに来た理由は西洋文化が好きだったからです。中国ではわずかな数の学生しかカナダに来ません。だから、カナダに来ることは歩む者の少ない道ですよ。

西洋社会で中国の留学生として、私は多くのことを学びました。カナダは私が中国にとどまっていたら、考えないようなことについて考える機会を与えてくれました。

カナダの大学で、私は政治について学びました。プラトンとアリストテレスの哲学を読んだり、多元文化主義など、カナダのことについてもたくさん学びました。これらの学習を通して、西洋と中国はなぜ違うのかを考えるようになりました。私は政治の研究によって、より深く世界を理解できるようになったのです。

また、カナダで、色々な背景をもつ人たちと出会い、神と宗教についても考えるようになりました。「神は存在するのか。宗教は社会にとって良いのか悪いのか？」このようなことについて、私は異なる宗教観を持つ友人と、はげしく議論したことを今でもはっきりと覚えています。私たちの顔は赤くなり、目は輝いていました。中国ではこのような質問に興味を持つ人はあまりいません。私が中国に滞在していたら、このような問題について考えたり、友人と議論をすることはできなかったでしょう。

ソクラテスは、人間が英知をやしなうためには、それを手助けする『助産師』が必要だといいました。私の場合、カナダが英知の『助産師』でした。「二つの道があるとき、私はいつも歩む者の少ない道を選ぶ」私が六年前にした決断は、永遠に私の人生を変えました。

ご静聴、ありがとうございました。

方言で話そう

日本の国土は南北に細長い形をしており、さまざまな気候や生活習慣が見られると同時に、土地の言葉も同じように、たくさんのバリエーションがあります。皆さんは自分の出身がどこか、もちろんご存知ですね。では、自分の出身地の方言が話せますか。私は話せません。私は江西省の Fuzhou という町で生まれましたが、2歳のときに広東省の Dongguan に引越しました。それ以来、家族とはマンダリンだけで話しています。マンダリンは中国の標準語ですから、標準語を話すことを批判される筋合いはないと思っています。どうして方言を話さなければなりませんか。それは、長年の疑問でした。でも大学に入って、言語学を学んで、やっと答えを見つけました。

地域の特徴的な言葉、つまり、ある地域だけで話されている言葉すべてを指して方言といいます。方言を通じて、人の出身がどこか、わかります。例えば、「今日はええ天気でんがな〜」と聞くと、あー、あの人は大阪人だとわかります。「今日はよか天気やなあ〜。なんぼしよっと？」これは博多の言葉です。「今日はいい天気どすな〜」は、もちろん京都弁ですね。地域によって、ほんとうにいろいろな方言があります。大阪人が大阪以外の場所でだれかが大阪弁を話すのを聞いたら、どう思うでしょうか。その大阪人は、仲間を見つけたと安心するでしょう。それは、方言には帰属意識を与えてくれる効果があるからです。

その効果を利用したビジネスのやり方について、みなさんは、なにかご存知ですか？ 日本の面白いテレビ番組を見ました。中古車販売をしている、ある営業マンは、方言を使うことによって場の雰囲気をごませ、お客さまとの距離を縮められると言っていました。お客さまに車の説明をするときには、方言で話します。でも契約のシーンになると標準語に切り替え、プロフェッショナルな雰囲気を出してその場をひきしめるのだそうです。すごいテクニックだと思いませんか？ また、全国の裁判を傍聴し、方言が法廷で果たす役割を調べてきた京都教育大学付属高校の札柰和男先生の著書、「法廷における方言」によると、使い慣れた方言は訴訟当事者たちの緊張を解きほぐして、真相を引き出す効果があるそうです。さらに、日本には11種類の方言をしゃべる自動販売機があることも知りました。飲み物を買うと「おおきに〜」と声が聞こえてくるのです。私もその自動販売機で飲み物を買ってみたいくなりました。方言にはいろいろないい効果があるようです。

一方では、方言を恥ずかしいと思う人もいるはずです。そして、方言は使う場所を間違えると、回りの人に失礼な印象を与えることがあるかもしれません。ですから、方言を使うTPOをわきまえる必要があるのも事実です。

しかし、私は、だからといって方言をしゃべらないのではなく、どんどんしゃべってほしいと思います。ユネスコが1999年に発表した消滅の危機にある言語のリストによると、世界で2500の言語が消滅の危機にあるということです。そして日本はアイヌや沖縄の8言語がその中に含まれています。2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響によって被災地の方言の中には、消滅した方言があるのではないかと予想されています。それで文化庁は、去年から、被災地の伝統芸能や方言の復興を支援してい

ます。方言のWebサイトを作ったり、方言による演劇を上演したりしているということで、これは、本当に素晴らしいことだと思いました。

普段は標準語をしゃべっていても故郷に着くや否や、方言をしゃべり出す人たちは、方言を知らない私からみればとても羨ましいですし、故郷に対する深い愛を感じます。そんな家族のような温かい方言がなくなるのは文化がなくなるということと同じです。なぜなら方言は長い年月をかけて文化と共に変化し、文化と共に人々に受け継がれてきたものだからです。方言は先人から受け継がれてきた文化遺産だと認識し、後の世代に是非伝えていって欲しいというのが私の願いです。私は子どもの頃、方言しか話せない祖父の言葉がわからなくて、祖父と話すのが嫌いでした。祖父が亡くなり、もう話すことができなくなった今、方言が話せなかった自分に後悔が残ります。もっともっと祖父から、故郷の昔の話や家族の思い出話など、たくさん話を聞きたかったです。方言を話している人は、普段、方言の大切さにあまり気づかないと思いますが、実は方言は考えているよりずっと大切だということを皆さんにわかっていただけたら、私はとても嬉しいです。

ご清聴、ありがとうございました。

ここにいる理由：自信

私はスピーチをしたことがないですから、今日は初めてです。子供のころからずっと詩や笑い話などを書くことが大好きなのですが、なぜか人の前で発言するのを怖がっていて何も言えなくなったのです。私の書いたことだけではなく、何でも怖がっていました。なまりはありません。どもりもありません。

日本語を勉強し始めた時も同じでした。家で勉強したらそれだけで試験でいい成績を取れました。しかし、もし発表などがあれば、体がギックとして動けなくなりました。まるでロボットのように、周りの人にみられないなら普通の人間だと思われてしまいますが、現れたら何かを変だなとすぐばれてしまいます。

2年前、日本に一年間留学しました。ごらんの通り、私はもう怖くないです。正直に言えば、少し緊張していますが、それはおそらく私が社会的な人ではないからです。それはかわらないことです。

では、この一年間で何がかわったのでしょうか。日本語能力を伸ばしたのでしょうか。それはそうかもしれませんが、前に説明しましたよね。英語で話すのも怖かったのです。

ね、皆様、お願いがあるのですが、いいでしょうか。子供の頃を思い出してください。教室で先生の質問を答えるために手を挙げたことがありますか。あると思います。それで、間違えた場合はどうなりましたか。恥ずかしかったですか。失敗した気がしましたか。

嫌な気持ちですね。あのような気持ちをさけたいでしょう。私はそうでした。答えがわかっているのに、絶対に手を上げませんでしたよ。間違えたら恥ずかしいですから。

先の話に戻って、そんな私が留学しました。無論、最初は大失敗でした。人が現れると何も言えないほど震えていました。英語と比べれば、日本語は何倍もつらかったです。しかし、私は頑張って、サークルに入ったり、英語を教えるボランティアプログラムに参加したりしました。それで、なにか気づいたのです。

それは、間違えなんてどうでもいいことですよ。間違えても、言葉が通じるならいいんじゃないですか。このスピーチにも間違えはきっとありますが、言いたいことをわかってくれるでしょう。このスピーチが好まれているか嫌われているかそれも関係ないことです。私はこれを言いたいのです。気持ちがあれば、それだけで充分理由になります。

周りの人の意見にこだわっていたら、自分の意見、冗談、話、自分の言いたいことすべて言えなくなります。それは全然充実した生活ではありません。

実は、日本から帰ってきた頃から、もっと積極的な人になった気がします。家に本とともに閉じ込められていた昔の私はもうなくなりました。毎日、友達と遊んだり様々な人たちと交（かか）わったりします。毎日冒険のように、つらいこともあります。結局、楽しい勉強になる経験です。

つまり、言葉を勉強したり、友達を作ったり、発表をしたりしたいなら、必要なのは能力ではなく運でもないです。必要なのは自信です。

間違えても、それは失敗ではないことわかっていたら、能力がきっと伸びます。自分の言いたいことをちゃんと周りの人に伝えたら、友達が簡単に出来ます。そのようなことができるなら、きっと自信を持っていますから。自分のことを信じて。この世に恐れることはありますが、自分の意見を言うのはその一つになるはずはありません。

ご清聴ありがとうございました。

蛙の旅

僕は飛行機に乗るのにトラウマを持っていました。それは、幼い頃、親によって無理やり行かされた英語キャンプがきっかけだったのです。迷路のような空港の中、言葉の通じない人達、そして家族と離れて初めて感じる寂しさと不安感。『二度とあんな思いはしたくない』そう思って逃げ続いたらいつの間にか、僕は家族と一緒にじゃなければ飛行機にも乗れない臆病者になっていたのです。この情けない自分を見て、僕は考えました。言い訳を作るのはもうやめよう。どこでもいい、自分で計画し、一人で海外に行ってみよ、自分に勝ってみよ。

2013年五月十四日、僕は中東のバーレーンという国に行く飛行機に一人で乗りました。大学のクラブからのスポンサーをもらって働きながら遊べる、と聞いて申し込んで見たのですが、奇跡的に選ばれ、あの未知の国に行くようになったのです。しかし僕は、空港のゲートに入る前からすでに汗だらけになっていました。緊張感を隠すために母に挨拶もせずに急いで入ったら、突然、目の前が真っ暗になってしまったのです。まるで子供の頃の悪夢がよみがえるようでした。手先が震えるのを我慢して、必死でロンドンに到着しましたが、そこはバンクバーの空港よりはるかに複雑で、5メートル前進するたびにチケットと地図を確認し続かなければなりませんでした。一睡も出来なくて精も根も尽き果てしまった僕は、出発から23時間後、ついにバーレーンに到着しました。何とかかばんを見つけて空港の外に出ると、そこには、まったく違う世界がありました。

夜なのに肌が痛いほどの暑さ、美しく光る砂漠の砂。テレビや本から見た世界が僕の目の前にありました。夢中になって外側の風景を見つめていると、いつの間にか、タクシーは僕がこれから住む宿に到着しました。そこで僕は、一緒に働くようになった学生達に紹介されました。彼らも僕と同じく大学からのスポンサーをもらって来た人達で、イタリア人、フランス人、ロシア人、中国人、バーレーン人、みんなそれぞれ違う文化や国籍を持った人々でした。最初は僕も、全てのことがあんまりにもいきなり変わってしまったせいで、すごく戸惑っていましたが、でも、それは彼らも同じだったのです。同質間を感じたからか、僕達は合宿を始めたおとたん、長年付き合い合った親友のようになりました。強い絆で繋がれたチームとなったのです。

僕達の仕事は、リーダーシップを主題としたコンファレンスの開催でした。しかし、外国で、しかも外国人学生を相手としてコンファレンスを開催するのは想像をはるかに超える困難の連続でした。学校の校長先生に会うため三時間も太陽の下で待ち続けたのに、結局合えなかったこともありましたが、参加したいという学生に電話をかけたのですが、彼女のお父さんが渡してくれなくて、連絡が取れない場合もありました。会議のスポンサーが見つからなくて困った時もありました。この様な難関にぶつかるたび、力になったのが仲間達だったのです。僕がビザを更新が出来なくて、国から追い出されそうになった時は、みんな僕と一緒に大士官まで行ってくれました。アイデアが思いつかなくて、困っていると、みんな疲れているはずなのに、徹夜で僕を手伝ってくれました。こうやって僕達は、誰よりお互いを信頼し、協力し合ったおかげで、乗り越えることができたのです。コンファレンスが無事に終わり、学生達から『ありがとう』と言わ

れた瞬間の感動は、苦しかったことを全部忘れてしまうほど甘いものだったのです。

僕は今まで楽な道だけを選んだせいで、自分がどんなに狭い世界に閉じ込まれていたか知りませんでした。英語では『コンフォートゾーン』言うこの壁を自ら破ることで僕は、トラウマや難関を乗り越えて、お別れの時、心で泣いてくれた友達も出来ました。僕は今も井の中の蛙かもしれませんが、でも僕は、もう挑戦するのが怖くないような気がしました。おかげで帰りの飛行機の中では、本当にぐっすりと寝ました。

ロードを飾った音

6歳の私はなぜ両親に「ピアノを弾いてみないか」と聞かれたが、さっぱりわかりませんでした。確かに、周りを見れば、ほとんどのクラスメイトは楽器を学び始めて、授業に通っていました。それでも、私は自分に音楽の才能がないと言い、親の誘いを断りしました。音楽を聴くより、外で遊ぶほうがずっといいと思った私は、小学校の音楽の授業もあまり聞かず、ダラダラ過ごしていました。私の音楽に対するこの狭い世界観は、小学校6年生の時、ギターを弾いていた同級の男の子によって、打ち砕かれました。彼がエレキギターで弾いた音は何よりも不思議で、言葉が出てこないほど、格好よかったです。数日後、私は母にギターを習いたいと言い、母は私の願いにちょっとびっくりしましたが、すぐに応じてくれました。

どうして急にギターを弾きたかったのか、その時の私にはよくわからなかったのですが、自分でも知らないうちにその答えを見つけようとしていました。ギターを習いながら、色々な音楽を聴き始めました。ポップ、クラシック、ジャズ、もちろん、私に一番深い影響を与えたロックを毎日聞きました。同時に、私は日本語を勉強し、好きな日本のバンドの歌詞やインタビューがわかるようになりたくて、励んでいました。最初、私は多分ただ自分が好きなロックバンドみたいになりたくて、単純なことしか考えていませんでした。

しかし、私は音楽を聴くほど、音楽というものがよく見えなくなりました。たくさんの歌手やバンドはメディアという巨大な河に流され、自分のスタイルを守れなく、音楽は商品化されつつありました。私はそれに複雑な気持ちを覚えました。特に、日本の音楽に興味を持つ私は、だんだん日本の主流の音楽が傾く方向が気になりました。自分が気に入った歌手が天狗になるのも納得できませんでした。見た目が綺麗で完璧なアイドルはたくさん人気を集められるが、人は本当に音楽に共鳴できるのか、それともアイドル自身だけに興味があったのか、色々疑問がありました。すると、私は音楽に信念を失い、心にあった情熱は少しずつ消えてしまいました。

私は高校一年生の時、家族とニューウェストミンスター(New Westminster)からバンクーバーに引っ越し、私は新しい学校に転校することになりました。当時の私は心が弱っていて、何度も学校のことについて悩んでしまいました。でも、学校のバンドに入り、ベース役をもらってから、私は大切な仲間に出会い、自分は一人きりじゃないことに気づきました。高校2年生の時から、私はバンドのメンバーと一緒に色々な人の前で演奏しました。聴衆の年齢や人種にかかわらず、ただ音楽で思いを届けて、最も楽しくて意味があった日々でした。

その時、私は音楽を裏切ったことを大変後悔しました。世の中にはたくさん音楽を聞く機会がない人がいるのに、私は過去に自分のわがままで音楽を捨てました。色々な人の前で音楽を演奏したからこそ、私はなぜ音楽が変化するのか、やっとわかってきました。アイドルや歌手として活躍している人々も、ただ見た目だけ売りたいというわけではなく、みんなは生きていて、ファンに恩返したり、自分の居場所を見つけるためにいるんです。時代が変わっても、音楽はいつも人に自由や希望を与えられるものです。

日本語を深く勉強したことによって、私は好きな日本のバンドの歌を聞くたびに、彼らが本当に言いたいことを改めて心に刻むことができた気がします。それは無論、自分の意志を貫くことへの決心にもつながりました。音楽はいつも迷ってしまう私を刺激して、立ち上がる勇気をくれました。私は今でもギターを始めた頃のように、音楽の意味を探しています。自分が好きな歌手やバンドに憧れの気持ちを持つだけでなく、私は惑わずに、自分のリズムを弾き続け、これからの旅路を開きたいと思っています。

ステレオタイプの脅威

私は、日本で一度とても面白い経験をしたことがあります。私と父が日本に里帰りした時の話です。空港で国際便が遅れて、次の国内便に乗り換えるのに30分しかない、という状況の中、私たちは走って税関まで行きました。私の母は日本人、父はカナダ人で日本で7年間住んでいたため父は日本語がぺらぺらです。父は税関の方にすばやく“次の飛行機のゲートが閉まってしまうので、少し急いでもらえますか”と状況を説明しました。しかし、父が日本語で話しているにもかかわらず、税関の方は一生懸命、さんざんな英語で父の質問に答え始めました。父の青い目、ブロンドの髪と父の話している日本語が税関の方の持つステレオタイプに合わず、父が話すはずだった英語で返事をし始めてしまったのです。言うまでもなく、飛行機は乗りそびれました。この私の経験は微笑ましい物ですが、全てのステレオタイプがそうでしょうか。ステレオタイプの危なさについて今日はお話したいと思います。

まず、ステレオタイプとは一体何でしょう。辞書によると“行動や考え方が、固定的・画一的であり、新鮮味のないこと。固定観念。”とあります。皆さんは一度はステレオタイプに基づいた考えを持ったり、経験をしたことなどあると思います。この日常的に存在する固定観念は人間の精神にどれほど影響を与えているか、カナダほど多民族ではない日本ではあまり知られていないのではないかと思います。

心理学でここ数十年注目を浴びている話題がステレオタイプの脅威、と言う社会現象です。この脅威とは、人は無意識に自分の属するグループのステレオタイプ、例えばお年寄りやテクノロジーを使えない、女性は男性に比べて理系の教科が苦手、などを受け入れ、そのステレオタイプと一致する言動をしてしまう、と言う説です。これは人種、年齢、性別など、どのステレオタイプについても起こりうる現象なのです。これを証明する研究があります。この研究は、参加者全員に数学のテストを受けさせる、と言う単純な実験です。参加者の半分はテストに個人情報は何も書かず、もう半分はテストの初めに自分の人種、違う実験では性別、を書き入れてもらいました。結果は、個人情報を書かなかったグループは皆同じような点数だったのに対し、個人情報を書いてももらったグループの中では少数民族や女性の点数が極めて低くなった、と言うことが分かりました。自分がどこのグループに属するかを強調することで、黒人は勉強が苦手、女性は男性に比べて数学が下手などの（正しくも無い）ステレオタイプに合う結果を出してしまったのです。その能力を発揮できないせいで人々が一定の活動、職業、学問を避ける、ストレスが溜まるなどの悪質な影響を及ぼす可能性も出てきます。現に、アメリカではこのステレオタイプの脅威は少数民族の健康レベルの低さ、学校の中退率の高さ、犯罪率の高さなど沢山の社会問題に繋がっていることが分かっています。

元々ステレオタイプとは、人間の脳が進化する過程で、人間が吸収する大量の情報を整理するために生まれた物だと言われています。人間が連想をする時と同じように、頭の中で沢山の情報が個人個人の経験に基づいて関連する情報ごとに集まり、ステレオタイプが生まれるのです。これは四歳児にも見られ、ステレオタイプがどれほど早くから作られるかが伺えます。この骨組みは一度作られたら、非常に変えづらいことが分かっています。ステレオタイプに当てはまらないことをしている人、例えば工事現場で働く

女性、などを見ると人間の脳はその記憶を消してしまうか、ステレオタイプに当てはまるように変えてしまうのです。税関の方が父の日本語に英語で返してしまったのもこのせいです。

2020年の東京オリンピック、高齢社会問題解決のための外国人労働者、移民増加などこれからの日本はもっと外国人に触れる機会が増えてきています。ゆがめられた伝統的な考え方やメディアを通してのイメージに頼って人と接すると、彼らにステレオタイプの脅威を経験させてしまうかもしれません。ステレオタイプの脅威に打ち勝つ方法は簡単です。人は皆、固定観念を持っており、それに当てはまらない人も沢山いるのだ、自分もその固定観念に当てはまらなくてもいいのだ、ということを知ることだけで、考え方をステレオタイプの枠からはずすことができます。(この見方を広める)には大勢の協力が必要です。日本に住んでいる、又は日本に住もうと思っている外国人の方のためだけでなく、これからの日本人のためにステレオタイプの認識をもっと深めてほしいと思います。